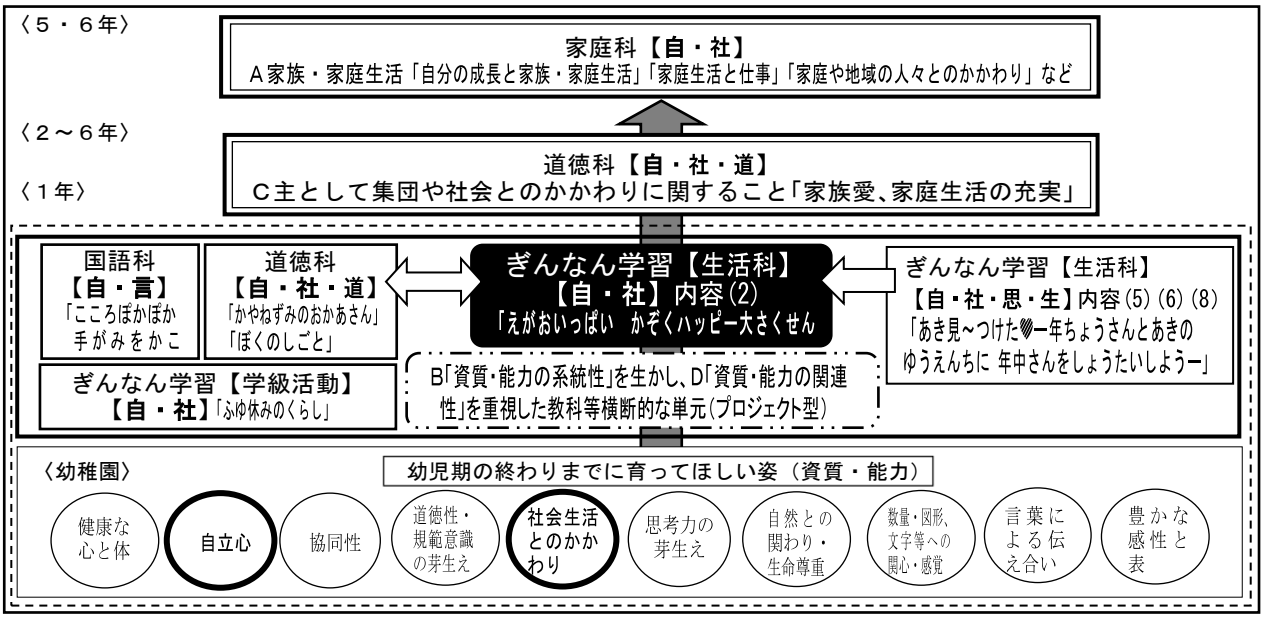
第１学年月組　ぎんなん学習【生活科】（＋国語科・道徳科）
「えがおいっぱい　かぞくハッピー大さくせん♥」　　指導者　大塚　翔

１　単元全体構想図



２　単元構想について

本単元は、生活科の内容(2)を主軸として扱うとともに、縦軸としてB「資質・能力の系統性」、横軸としてD「資質・能力の関連性」を重視して構想した。

縦軸については、本単元において育てたい資質・能力の出発点を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の【自立心】【社会生活とのかかわり】であることを踏まえ、幼児期の育ちが本単元で発揮されるように意識した。同時に、前単元「あき見～つけた♥」が本単元につながる契機として位置付けることで、単元間をストーリー性のある学習内容にすることを可能にした。横軸については、国語科や道徳科で高まっている資質・能力が発揮されるプロジェクト型の教科等横断的な単元構想を考えた。

本学級の子どもは、生を受けてから今まで温かい家庭環境の中ですくすくと育ってきた。どの家庭においても、手間を掛けて学校生活を支えたり、成長の節目に当たる行事や子どもとのかかわりを大切にしたりしてきた。各家庭で家庭環境や家庭教育の在り方が異なることもあるが、子どもからの話や保護者との日々のやり取り、個別懇談での情報交換等で、愛情いっぱいに支えられてきたことを肌で感じる。入学した頃の経験差は各家庭によってばらつきが大きいが、二学期になると学校生活に慣れ、幼児期に比べてできることが増えてきた。様々なことに挑戦したり手伝うことに喜びを感じたりして、一人一人が自立に向かう心の表れが見られ、この時期ならではの特徴と言える。その反面、多くの子どもは、身支度や時間割、宿題への声掛けなど家庭や学校における生活を家族に支えてもらっており、それを当たり前のこととして捉えている。また、未分化な発達段階であるこの頃の子どもには生活の中で家庭のよさや家族のありがたさを見詰める経験も多くはない。

このような時期だからこそ、家族や家庭生活を見詰めることで、当たり前と思っていた家庭のよさやありがたみを感じる絶好の機会となる。そこで、家族の幸せ（本単元では「家族のハッピー」）とは何かを考え、家族のハッピーのために自分ができることを実践する活動を通して、家族や家庭生活についての気付きの質を高め、家庭という対象の世界観を広げていく。家庭の中で自分が役に立っていることを実感した子どもは、家族の一員としての自分の存在に自信を持つとともに、身に付けた資質・能力を生かし発揮し、家庭においても自分のできることを考えるだろう。そして、これからも家族のハッピーを求めて続けていこうとする態度や自分自身の成長を期待する前向きな姿勢を持ち、自立に向かう心が育まれることを願い、本単元を構想した。

そのために、まず単元導入の第0時として、前単元「あき見～つけた♥」で長い間交流してきた幼稚園5歳児にお礼の手紙を渡すことにし、自分の思いや願いを持って他者を喜ばせる経験を積むようにする。そこで得た達成感や成就感は、次の活動でも他者を喜ばせたいという新たな思いや願いを持つことができるだろう。この次への他者の中に、いつも支えられている家族が必然的に出てくることは自明なことである。このように、家族との魅力的な出合いを果たすことで、「家族をハッピーにしたい」という思いや願いを持つことができるようになる。その思いや願いの実現に向かって家族のハッピーについて繰り返し調べ、友達と情報交換しながら自分になりの家族のハッピーを捉えることができるようにする。それを基にしてハッピー大作戦を計画し、家庭で実践する。この思いや願いに向かう追究の場面では、ハッピー大作戦という家庭で行われる体験活動と、身近な生活にかかわる見方・考え方を生かしながら振り返り表現する活動を繰り返し往還する過程で、家族が求めるハッピーとは何かを明確にしていくとともに、気付きの質を高めていく。家族へのハッピー大作戦を終えた子どもは満足感や達成感を持ち、このタイミングで家族からの手紙を受け取ることで、自分自身が家庭生活の役に立っていることや、家族のよさやありがたみを実感することができるだろう。このような感動が新たなる思いや願いをもたらし、振り返りの場面で家族に感謝を伝える活動を通して、自分の役割を自覚し、家族の一員としてこれからも自分にできることを続けていこうとする自立に向かう心が育まれることを期待した。

３　単元のねらい

○　家族のハッピーのために自分ができることを実践する活動を通して、自分が家族によって支えられていることや自分自身が家庭生活の役に立っていること、家族のよさやありがたみに気付く。

○　家族のハッピーのために自分ができることを実践する活動を通して、家族のハッピーについて考え、家族をハッピーにするための自分にできそうなことを考える。

○　家族のハッピーのために自分ができることを実践する活動を通して、自分なりに考えたハッピー大作戦に進んで取り組むとともに、家族の一員として、規則正しく健康に気を付けて生活することやこれからも自分にできることを続けていこうとする態度を育てる。

４　単元の展開（全１１時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評　価　の　規　準	時間
出合い	おうちの人のハッピーをほうこくしよう。 ○　家族のハッピーについて自分なりに調べたことを伝え合う。	●　家庭における家族のハッピーとはどのようなことかを考えている。	２
追究	おためしハッピー大さくせんかいぎをしよう。 ○　お試しハッピー大作戦会議を行う。 おためしハッピー大さくせんをふりかえろう。 ○　お試しハッピー大作戦を振り返る。 心ぽかぽかかぞくハッピー大さくせんかいぎをしよう。 ○　家族にインタビューしたことを基に、心ぽかぽか家族ハッピー大作戦会議を行う。	●　家族をハッピーにするための自分にできそうなことを考えている。 ●　家族の役に立ったことや困らせたことに気付いている。 ●　自分なりに捉えた家族が求めるハッピーを基に、自分にできることを考えている。	７ 本 時 その７
	心ぽかぽかかぞくハッピー大さくせんを見なおそう。 ○　日々の心ぽかぽかハッピー大作戦を見直し、今日の活動に生かすようにする。	●　自分なりに捉えた家族のハッピーと照らし合わせて、自信を持ったり改善したりして進んでハッピー大作戦に取り組もうとしている。	5、5、5 15、15 分
	心ぽかぽかかぞくハッピー大さくせんをふりかえろう。 ○　心ぽかぽか家族ハッピー大作戦を振り返る。	●　家族のよさやありがたみ、自分が家族によって支えられていることに気付いている。	
振り返り	かぞくにじぶんのおもいをつたえよう。 ○　家族に対する思いを自分なりに伝える計画を立て、準備し、実行する。 ハッピー大さくせんから学んだことはなんだろう。 ○　今まで学んだことを振り返り、伝え合う。	●　家族に感謝の気持ちを伝えるために、自分にできそうなことを考えている。 ●　規則正しく健康に気を付けるようになった自分に自信を持つとともに、家族の一員として自分にできることを続けていこうとしている。	３

５　単元における指導の工夫

場面	三つの場面ごとの子どもと「つなぐ」指導の工夫（学習材・他者・自分自身）
出合い	・　国語科で手紙によって年長児をハッピーにする活動や道徳科で家族への感謝について考える学習を行うことで、「家族をハッピーにさせたい」という思いや願いを育てる。（学） ・　家族にとってどんなことがハッピーなのかを思い起こし共有することで、自分の家族のハッピーを調べてみたいという思いや願いを持つことができるようにする。（学）
追究	・　学級だよりや電話連絡、個別懇談等で家庭との連携を図ることで、家庭との協力体制を築き、子どもの思いや願いに向かって実現できるよう学習環境を整える。（学） ・　家族を見詰める機会を繰り返し設定することで、家族のハッピーについての自分なりの捉えを明確にできるようにする。（学） ・　ハッピー大作戦を繰り返し設定することで、お試しハッピー大作戦の経験を、心ぽかぽか家族ハッピー大作戦に生かすことができるようにする。（学） ・　活動の振り返りの際には「ベンチでちょっトーク」を取り入れることで、友達の家庭と自分の家庭を比べながら、自分の思いや考えを明確にすることができるようにする。（他） ・　板書を構造的にすることで、気付きを共有したり、学びを自覚させたり、次時の学習に見通しを持ったりすることができるようにする。（学･他） ・　子どもが身近な生活にかかわる見方・考え方を生かすことができるようにすることで、自分と家族とのつながりを感じ、気付きの質が高まるようにする。（学・自） ・　心ぽかぽか家族ハッピー大作戦中の振り返りの時間をモジュール学習によって確保することで、日々の作戦を見直し、今日の作戦に自信を持ったり改善したりできるようにする。

	（学・自） ・　保護者からの子ども宛ての手紙を用意することで、家族の温かさや家族の思いを実感できるようにし、家族に対する思いを自分なりに伝えたいという新たな思いや願いを持つことができるようにする。（学・自） ・　振り返りカード「家族ハッピー物語」やドキュメンテーションを振り返ることで、家庭と自分とのかかわりに気付き、家族の思いを感じることができるようにする。（学・自）
振り返り	・　家族に対する思いを自分なりに伝える活動を設定することで、今まで培ってきた資質・能力を生かし発揮する場とする。（学・自） ・　思考ツール「Y チャート」を活用して、「家族（対象）」「学び方（他者）」「自分の成長（自分自身）」の三つの視点で振り返り、深い学びを自覚できるようにする。（学・自）

６　評価の具体的な方法

(1)　評価の方法

発言や様態、振り返りカード「家族ハッピー物語」、学習カードから見取る。

(2)　評価計画（別紙参照：身近な生活にかかわる見方・考え方と評価計画の詳細）

	深い学びにつながる姿	評価の基準	見取りの視点
出合い	自分の家族を思い浮かべて、家族のハッピーとは何かと考えている姿	家庭における家族のハッピーとはどのようなことかを考えているか。 （思・判・表）	家族のハッピーが家族の好きな物ではなく、家族が喜ぶ家庭の状態として考えている。
追究	自分なりの理由を持って作戦を考えている姿	家族をハッピーにするための自分にできそうなことを考えているか。 （思・判・表）	家族にとって役に立たないことを自分の生活から振り返っている。
	家族が求めるハッピーを基にした作戦の大切さに気付いている姿	家族の役に立ったことや困らせたことに気付いているか。 （知・技）	家族から言われた言葉や表情から家族の役に立ったことに気付いている。
	自分なりに捉えた家族が求めるハッピーを基に、作戦を考えようとしている姿	自分なりに捉えた家族が求めるハッピーを基に、自分にできることを考えているか。 （思・判・表）	自分の在り方や家族の在り方から作戦を考えている。
	自分なりに捉えた家族のハッピーと照らし合わせ、ハッピー大作戦に自信を持って進めたり、内容を改善したりしている姿	自分なりに捉えた家族のハッピーと照らし合わせて、自信を持ったり改善したりして進んでハッピー大作戦に取り組もうとしているか。 （主）	自分のことを早く終えたら、家族と一緒にいる時間ができると、家族のハッピーと結び付けて考えている。
	自分の家族のことを思い描きながら、自分が家族によって支えられていることを感じている姿	家族のよさやありがたみ、自分が家族によって支えられていることに気付いているか。 （知・技）	家族の手紙を見て感動したことを、家族のよさとつなげて発表している。
振り返り	家族の喜ぶ顔を思いながら、家族に合った自分なりの感謝の気持ちを表している姿	家族に感謝の気持ちを伝えるために、自分にできそうなことを考えているか。 （思・判・表）	自分なりの家族のハッピーと感謝を表すものを考えようとしている。
	家族の一員としての自分に自信を持ち、これからもできることを続けていこうとしている姿	規則正しく健康に気を付けるようになった自分に自信を持つとともに家族の一員として自分にできることを続けていこうとしているか。 （主）	自分が元気なら家族と笑顔でいられるから、これからも風邪に気を付けた生活をしようとしている。 冬休みに向けて自分でできることをしようとしている。

７　本時の授業（８／１１）

(1)　**日　時**　　令和３年１２月２０日（月）10:45～11:30
(2)　**場　所**　　１年月組教室
(3)　**ねらい**　　心ぽかぽか家族ハッピー大作戦を振り返る活動を通して、家族のよさやありがたみ、自分が家族によって支えられていることに気付く。
(4)　**準備物**　　ぎんなん日記、学習カード、振り返りカード「家族ハッピー物語」、家族からの手紙掲示物　など
(5)　**展　開**

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
1　本時のめあてを確認する。 2　ペアになってハッピー大作戦を振り返る。	心ぽかぽか家族ハッピー大作戦を振り返ろう。 「ベンチでちょっトーク」で伝え合おう。 ・みんなのハッピー大作戦が聞けて楽しかったよ。 ・みんな、家でがんばっていたんだね。 ・自分のがんばったことを話せてすっきりしたよ。 ・お家の人の大変さがすごく分かったよ。	○　ハッピー大作戦の振り返りの際は「ベンチでちょっトーク」を取り入れ、友達と自分の家庭を比べながら、自分の思いや考えを明確にする。 ○　ハッピー大作戦のことについて書いたぎんなん日記を見せ合うことで、その時の様子や感動を伝えることができるようにする。
3　ハッピー大作戦が成功したかどうかを考える。	家族をハッピーにすることはできたのかな。 ・いつも家族は笑顔でいてくれたから、ハッピーにできていると思うよ。 ・お母さんは自分の頑張りを褒めてくれたよ。とても喜んでいたからハッピーになったはずだよ。 ・自分は今まで言われたことを自分から進んでやるようになったんだよ。成長したことを喜んでくれた。 ・忘れたこともあったし、手間を掛けさせてしまった。あまりハッピーになってないな。	○　思考ツール「座標軸」を活用することで、ハッピー大作戦の手応えを明確にする。 ○　座席の向きを中央に向かせることで、互いの顔が見えるようにし、子どもの対話を促す。 ○　板書を構造的にすることで、気付きを共有するとともに、考えが広がるようにする。
4　家の人の手紙を読み、家族について考える。	家族は本当にハッピーになったのかな。 それとも変わらなかったのかな。 ・うるうる･･･感動したよ。 ・お母さんは僕のことをこんな気持ちで思ってくれていたんだね。 ・家族をハッピーにさせようと頑張っていたけど、自分の方がハッピーになってしまったよ。 ・家族のハッピーと自分のハッピーはつながっているんだね。 ・何だか応援されているみたいで、力が湧いていてきたよ。家族って、自分に力をくれるんだね。 ・家族っていいな。帰ったらありがとうって言いたい！ ・お家の人のために、感謝の気持ちを伝えたいな。	○　保護者からの手紙を用意することで、家族の温かさや家族の思いを実感できるようにする。 ○　身近な生活にかかわる見方･考え方を生かすため、「自分の家族をどのように思っているか」を問い返すことで、家族に対する気付きの質が高まるようにする。
5　本時の活動を振り返る。	「家族ハッピー物語」に気付いたことや考えたことを書こう。 ・自分も家族の一員なんだなと思いました。 ・これからも、家族のためにできることを続けたい。 ・自分は家族によって支えられている分、これからも家族のために頑張りたい。 ・家族のためにありがとう作戦をしたいな。 お家の人に、今の自分の思いを伝えたいな！	○　「家族ハッピー物語」に気付いたことを記録させることで、家族への気付きの質の高まりを自覚できるようにする。 ●　家族のよさやありがたみ、自分が家族によって支えられていることに気付いているか。 ［発表・様態・ぎんなん日記、物語］